

国際交流基金日本語国際センター25周年記念シンポジウム
課題遂行を出発点とした言語学習デザイン 『まるごと 日本のことばと文化』の挑戦

JAPAN FOUNDED 国際交流基金

セッション1
「JF日本語教育スタンダード」の理念と日本語コースブック『まるごと』の開発

入門・初級教材における
相互理解のための課題遂行

来嶋 洋美
国際交流基金日本語国際センター

2015年2月1日 於 国際交流基金日本語国際センター佐藤ホール

1

発表内容

1. 「相互理解のための日本語」
2. JF日本語教育スタンダードと『まるごと』
3. 『まるごと』の課題遂行と相互理解
4. まとめ



入門(A1) 初級1(A2) 初級2(A2) 初中級(A2/B1)試用版

基礎段階 A1 A2

1. 「相互理解のための日本語」

1. 「相互理解のための日本語」

1.1 相互理解とは

相互理解とは
思想や信条、立場は異なっても、
人間としての尊厳を重んじ、
他者を認め、
理解しようとすることである。

『平成17(2005)年度JF日本語教育スタンダードの構築をめざす国際ラウンドテーブル 会議録』 p134

人間関係の構築 存在をみとめる

1.2 相互理解のための日本語とは(1)

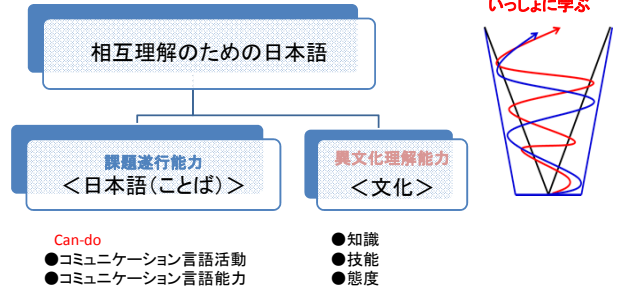
発信者と受信者が、
ある領域や場で
特定の(コミュニケーションの)課題を
共同で遂行しようとする
可能にする日本語

1.2 相互理解のための日本語とは(2)

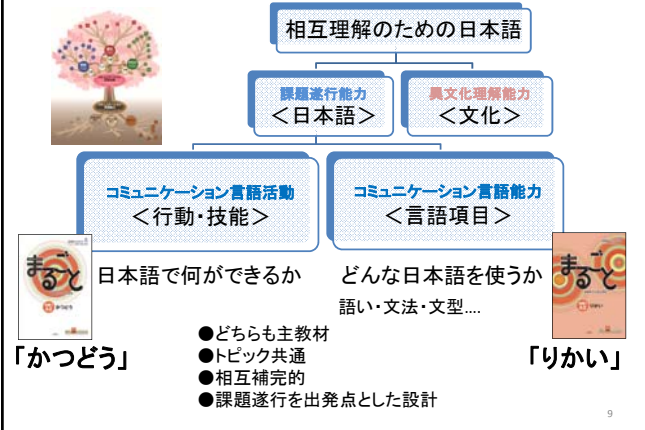
- ①国籍や民族を超えた使用者「日本語人」
- ②共同作業(課題遂行)
- ③領域・場(社会的文脈)
- ④言語に対する「柔軟な姿勢」(異文化理解)
- ⑤人間的な豊かさの獲得
 - ・複数言語・複数文化に触れ、より複合的な視野
 - ・自文化についても新しい視点

2 JF日本語教育スタンダードと『まるごと』

2.1 JFスタンダードと相互理解



2.2 2つのコースブック



ないよういちらん<かっどう>初級1A2

初級1A2 もくひょうCan-do (行動・技能)

- かぞくやじぶんがどこにすんでいるか、なにをしているかかんたんに話します
- かぞくやともだちとなにごで話すか言います
- しゅみについて話します
- じこしょうかいのサイトのみじかいコメントを読みます
- じこしょうかいのサイトにみじかいコメントを書きます

コミュニケーション言語活動 特に「やりとり」中心

「かっどう」コミュニケーション言語活動

- 出発点は課題遂行(コミュニケーション言語活動)
 - ・「やりとり」中心
 - ・音声重視 : 話す前に・たくさん・自然な会話を聞く・文字はあと
- 帰納的学習 :
 - ・目標会話を文脈・場面ごと切り取って提示
 - 用例観察 → ルールの発見
- 視覚的情報: 写真、イラスト、など
- 協働学習 : 異文化理解学習も
- 学習者の自律性: 学習の自己管理、自己評価 →

ないよういちらん<りかい>初級1A2

ことば	かんじ	かいわとぶんぼう	きほんぶん	どっかい	さくぶん
だい1か	かぞくとしんせき	私は東京にすんでいます。		「まごからのメール」	「私のかぞく」
	私、父、子ども	かいいしゃまででんしゃで行きます。			
だい2か	しゅみ	しゅみはクラシックを聞くことです。		「私のしゅみ」	「私のしゅみ」*
	国、外国、～語、	こどものとき、よく日本のアニメを見ました。			

コミュニケーションのための言語項目学習
練習の文脈化 音声利用

「りかい」 コミュニケーション言語能力

- コミュニケーションのための言語項目学習
 - ・ 文法/句型練習の文脈化(トピック、場面)
 - ・ 音声重視: 聴解文型練習、音声で答えチェック
 - ・ 文字: 語単位で正しく読めること(漢字含む)
- 演繹的学習: 規則提示→適用
- 会話以外のテキスト: どっかい、さくぶん
- ことばの使い方と文化についての学習
- 協働学習: 異文化理解学習も
- 学習者の自律性: 学習の自己管理、自己評価 →

「かつどう」

ことばと文化をいっしょに学ぶ教材の例として

- 初級1 トピック2 きせつとてんき
- 第3課 日本はいま、はるです
- 第4課 いいてんきですね

『まるごと』初級1A2 「かつどう」
トピック2 きせつとてんき
だい3か 日本はいま、はるです

①とびら
トピックとCan-do

②きいてみましょう
トピック・場面と話し

3 日本はいま、はるです

③ききましょう
会話を聞く
話すモデルとバリエーション

⑤ペアで話しましょう
モデル会話の流れにそって
自分のことを話す

③ききましょう
会話を聞く
話すモデルとバリエーション

⑤ペアで話しましょう
モデル会話の流れにそって
自分のことを話す

場面会話 「かつどう」入門A1 Can-do15 ハンバーガーの店で簡単な注文をします
 日本で 現地の日系の弁当屋などで注文する(情報提示)
 日本で 旅行などで日本滞在中にハンバーガーショップで注文する(情報提示)

「ハンバーガーひとつ、ください」

1) 082 2) 083
 A: いらっしゃいませ。
 B: すみません。えー、ハンバーガーひとつください。
 A: はい、ハンバーガーひとつですね。どうもありがとうございます。

「かつどう」入門 A1 L6

交流会話 「かつどう」初級1A2 Can-do6 季節の変化について簡単に話します
 パーティーのときや、職場や学校の休み時間などに雑談をして、お互いに関心する。(自分のことを話す、共感する)

「いま、どんな季節ですか」

1) 020 2) 021 3) 022n 4) 023n
 A: 日本は今、どんな季節ですか。
 B: 今、冬です。東京は寒いですよ。みんな、コートです。
 A: へえ、そうですか。じゃ、いつごろ暖かくなりますか。
 B: だいたい3月ごろです。
 A: ああ、3月ですか。

「かつどう」初級1A2 L3

交流会話 「かつどう」初級1A2 Can-do7 好きな季節とその理由を簡単に話します
 パーティーのときや、職場や学校の休み時間などに雑談をして、お互いに関心する。(自分のことを話す、共通点を探す、共感する)

「好きな季節はいつですか」

1) 024 2) 025 3) 026n 026 4) 027n 027
 A: やまださん、好きな季節はいつですか。
 B: 春です。
 A: 春、どうですか。
 B: あたたかいのが好きですから。
 A: ああ、そうですね。

「かつどう」初級1 A2 L3

交流会話 「かつどう」初級1A2 Can-do20 何語を勉強したか話します/Can-do21 今までに勉強した外国語について話します
 パーティーのときや、職場や学校の休み時間などに雑談をして、お互いに関心する。(自分のことを話す、共通点を探す、共感する)

「今までにどんな外国語を勉強しましたか」

083 084 085n 086n
 <かつどう> 初級1A2 L9

交流的場面会話 「かつどう」入門A1 Can-do10 ほかにの人に飲み物をすすめます
 日本で 旅行などで現地の日系の弁当屋などで注文する(情報提示)
 日本で 旅行などで日本滞在中にハンバーガーショップで注文する(情報提示)

「コーヒー、のみますか」

1) 067 2) 068 3) 069 4) 070
 A: たなかさん、コーヒー、のみますか。
 B: はい、おねがいします。
 A: ジュースは？
 B: ジュースは けっこうです。

「かつどう」入門 A1 L5

交流的場面会話 「かつどう」入門A1 Can-do13 ひるご飯をどこでいっしょに食べるか友だちと話します
 日本で 赴任したばかりで現地の事情がよくわからない日本人の同僚と昼食に出る(情報提供、助ける)
 日本で 出張等で来日し、事情がよくわからないので、同じ職場の日本人に話しかけていっしょに昼食に出てもらう。(情報提供してもらう、助けてもらう)

「きょうはどこでたべますか」

1) 077 2) 078 3) 079 4) 080
 A: たなかさん、ひるごはん、きょうはどこでたべますか。
 B: あのみせで たべましょう。
 A: ラーメンですか。
 B: はい。あの みせは おいしいですよ。
 A: じゃあ、そうしましょう。

「かつどう」入門 A1 L6

交流的場面会話「かつどう」初級1A2
Can-do35 ホテルのへやをチェックして、だいいょうぶか
言います
海外出張で来た人が、その助に不慣れでことばもよくわかってい
ないので、ホテルの部屋に不備があつて困らないようする。(配
慮、助ける)

「ちょっと電気、チェックします」

2行  ホテルのへやを チェックします。
「ちょっと でき、チェックします。」
「あ、すみません。」
「でき は だいいょうぶです。」
「そうですか、どうも ありがとう。」


[1|129](#) [2|130](#) [3|131](#) [4|132](#)

「かつどう」初級1A2L13

→

3.4 相互理解の観点から学習活動をみる

- 3つの交流
(本の中) 登場人物間の交流場面
(聞く活動) 登場人物+学習者
(話す活動、協働作業)
学習者間、教師・学習者間



- 聞くことと他者理解
- 「日本語人」:
自然な日本語、多様な人々の声
- 「柔軟な姿勢」
相手の気持ちや意志をわかつてもらう態度、
文法や使い方が完備な日本語を求めない

4. まとめ

日本語と文化を通した人々の相互理解


相互理解

ことば 文化

ひと

国際交流

大人が互いの存在をみとめ、
学び合い、
皆で楽しむクラス



相互理解のための課題遂行

- 相互理解は人間への興味、他者への配慮、関係構築の意欲を原点とするもの。
- 日本語のレベルを問うものではなく、ことばが上手になるまで後回しにする必要もない。
- むしろ、入門時からできる相互理解のためのコミュニケーションを拾い上げていくべき。
- そして、日本人も外国のことばと文化を学んでこそその「相互理解」。

人間的豊かさをもとめる外国語教育